

分科会 I 部・II 部

①まちゼミの新しい動き

■金児達也氏 [まつさが得するまちのゼミナール (三重県松阪市)]



中学校とコラボした「まちゼミジュニア」の事例を紹介した。一つの中学校ではクラブ活動の一環として、もう一つの中学校では遠足の一環としてまちゼミを実施した。遠足の一環とすることで1学年全体が参加。商店街を遠足の通り道にして、ウォークラリーのチェックポイントを設置した。

まちゼミジュニア実施の利点としては、目に見える地域貢献であることから、メディアへアピールしやすく、取材をしてもらいやすいことがあげられる。また、子どもから親への会話のテーマとなり、親子で後に顧客になる可能性、学校や地域からの信頼を得られることなども利点である。

■谷中邦彦氏 [調布まちゼミ実行委員会 (東京都調布市)]

図書館との連携の事例を紹介した。調布の中央図書館と協力して、まちゼミの講座に参考となる図書の検索、リクエストを可能にしている。図書館にブックリストを無料で作成してもらえるサービスがあるので、それを利用している。店主にとっては書物からの知識が講座で提供する情報の裏づけとなることから、ブックリストを活用することでまちゼミ参加への敷居が下がり、参加店舗数を増やすことにつながる。また、まちゼミの受講者に対しても、ブックリストがあれば、講座で得た知識をさらに深めることができる。図書館にとっても貸し出し数が増え、win-win-winの関係となっている。



図書館へのアプローチ方法として、図書館にはビジネス支援、レファレンス機能の充実という使命があるので、まちゼミに協力することがその使命の一環であるという点を強調すると良い。検索すれば図書館との連携の事例が出てくるので、是非参考にしてほしい。

■進行役：杉浦文子氏 [岡崎まちゼミの会]

意見交換は以下のとおり

Q. 図書館、学校との連携をはじめたきっかけは？

- ・全国ビジネス図書館支援協会会長である電気通信大の先生から図書館利用についてのヒントをもらった。異業種のネットワークを使い取り込んでいった形。(谷中)
- ・大人版商店街ツアーは以前にやっていた。まちゼミ事業の開始を機に類似点が多いため廃止にしたが、商工会議所からの中学生向けにやってみては、とのアイデアを発展させた。(金児)

Q. 岡崎では商店間のコラボ講座を開催しているが、そういう事をしているか？

- ・コラボ講座は人気がある。無店舗経営の方がまちゼミをやりたいとコラボを申し出ることがある。まちゼミで知

り合った方にPC修理等、まちゼミのつながりを利用している。（谷中）

・コラボ講座は少ない。自身が食料品と学生服（子どもの成長に合わせた食育）のコラボを開催したことがあるが、遠い話題でやると難しいという感想。（金児）

Q. ブックリストは各店舗に置いているのか？書籍は講座の資料として使っているのか？

・リストはまちなか図書館に置いたりしている。一部印刷して渡し、あとはデータから各自使ってもらっている。書籍も蔵書数次第でまちなか図書館に置いたりフェアに置いたりしている。フェアでは同時にまちゼミの宣伝もしてもらえる。（谷中）

Q. 営利団体としての活動に市民や参加していない店からの苦情等があったか。また、参加店舗は増えているか。

・苦情は今まで一度もない。それどころか、チラシに市役所などの協賛が入るので一緒に店のチラシを配ると、普段置かせてもらえない施設にも置かせてもらえることもある。参加店舗は増えている。（谷中）
・参加店舗数はほぼ変わらず。効果がわからないとやめる店舗もある。（金児）

Q. 図書館で作成してもらえるリストはどのようなものか。

・申込書に書いたテーマだけで何冊もタイトルを出してきてくれる。（例えば、「アロマのブックリスト」「お茶のブックリスト」など）司書の方は我々が思っている以上に専門的であり、42講座分を1週間で出してくれた。（谷中）

Q. まちゼミの実施期間に図書館にコーナーを作るのか？

・まちゼミ期間にフェアを開催し、講座にあった本を図書館の人が置いてくれる。まちゼミを受けた人が図書館に行けば関連書籍が読め、また図書館に来た人がまちゼミを知るきっかけにもなる。（谷中）

Q. 連携の話をするタイミングはいつがベストか？

・出来るだけ早めにこういうことをやってもらえるか、と話をしておく必要がある。実際に申込書を出して図書館側が選定作業に入るととても忙しくなるので。（谷中）
・予算面からも構想段階から話をしておくスムーズ。企画書も作っておくといい。（金児）

Q. まちゼミのプロジェクトメンバー（実行委員的な）は何人いるか？

・動いているのは10人だが、コアメンバーは3名（谷中）
・コアメンバーは3～5名。事務的なところは商工会議所をお願いしている。あまり大きいと統制がとれないこともある。（金児）

Q. 商店街のにぎわいがまちゼミの最終目的。学校や図書館と連携することによってまちのにぎわいはどうなったか。（杉浦）

・自分達が知らなかったネットワークが出来たことが大きい。外に対して目を向けることが出来たのが良かったと思う。（谷中）
・地域あってのお店。にぎわいづくりは個別に考えずまちぐるみでやっていくことなので、まちゼミはそのツールとし

第4回 全国まちゼミサミット（2017.2.2.）

て意味があると思う。（金児）

コラボ講座は相手講師の説明、接客の仕方が参考になり勉強になるので是非開催していただきたい。ここで紹介した二つの成功事例が全ての地域に当てはまるとは限らないので、自分の地域に合わせて少しずつ出来ることから実施してみてもどうか。（杉浦）